

## 1. はじめに

1月中旬から、氷点下を大きく下回る日が続いている。例年よりも格段に寒く、スイーツメート曰く「Record-breaking cold temperatures」だそうだ。1月下旬には、アメリカ中西部全域に氷点下を大幅に下回る記録的な大寒波が襲い、クラスが全て休講になった。ちなみに、同州ノーブルズビル市の警察は、ネット上で、「命を脅かす」ほどの低温になるとされ、警察署や郡保安官事務所は「犯罪の休止」を宣言し、不法行為をはたらくより「家で読書でもするか、ネットフリックスを見ているように」と呼び掛けたそうだ。

留学生活も残り少しとなり、ローズでの課題や工大からの課題研究を行う慌ただしい1か月となった。



Fig1. 凍り付く湖、対岸まで歩ける

## 2. 授業

### 2.1. BIO220: Microbiology

授業では、主にバクテリアの特定な機能や、微生物が担う窒素循環や炭素循環などの役割と環境の関わり、ウイルスについての構造と感染症について学び、ディスカッションを行った。授業では、教授が一方向的に話すだけでない。例えば授業の初めに、「ウイルスと細菌の違いはなんでしょうか？」と問いかけ、同じテーブルに座ってる学生と話し、その後教授がホワイトボードに書き、学生の答えに言及しながら授業を進めていく。また、校内でインフルエンザが流行っていることから、その話を交えたり、「授業の内容が面白い」と感じるものとなっている。

ディスカッションでは、毎週事前に各グループでテーマを決め、調べてグループとしてまとめる。その後、授業で、新たなグループの中でディスカッションを行う。私たちのグループは、「Quorum Sensing」、「Nitrogen-fixing bacteria」、「Polio virus」について取り扱った。情報をまとめる際は、Google Docsを使うため、複数人で同時に1つのドキュメントに情報を簡単にまとめ、編集することができる。またこの機能を使って、私の書いた個所の変な英語やミスを直してもらっているので、メンバーには大変感謝している。

Labでは、前回の実験から、抗生物質生産能があるとされる株の分離、PCR、電気泳動で確認、Sequence解析用サンプルの作成を行った。また並行して、種類を同定するために生化学代謝試験、有機溶媒抽出、抗生物質活性の評価実験を行った。しかしPCRでは、反応産物がわけあってsequence解析に送る量に満たなかったため、担当のO'Connor教授にお願いして時間外に追加で実験を行った。2度目には無事に成功したので、よいsequence解析の結果が送られてくることを期待したい。

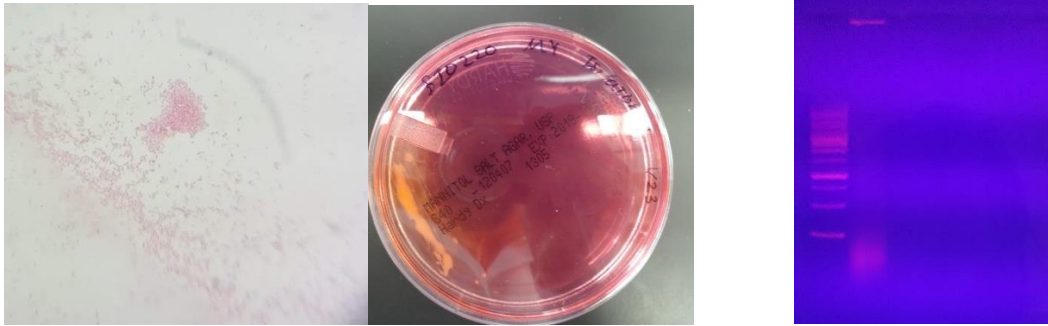


Fig23. 生化学代謝試験(右: MSA プレート, 左: グラム染色) Fig4. 電気泳動による PCR 産物の確認

## 22. CHEM331: Biochemistry II

1月上旬に、Take-home Examがあり、普通のExamとは異なり、あらかじめ期限が決められており、家で行ってくるものである。内容はとてもユニークであったが、今まで受けていたExamとは難易度が桁違いに違い、1問の問題を解くのに数時間かかった。

しかしながら、他の科目の課題やに追われ、予習が中途半端になったため無念ながらドロップアウトしてしまった。原因としては、この授業は、本来Biochemistry I, Mendelian & Molecular Geneticsが履修の前提条件になっている。そのため、これらの授業を受けていることを前提に話すので、事前の予習と科学用語を覚えなければならなかった。また、J-1ビザの最低単位数が12単位であることから、他の授業に集中するために最終的にドロップアウトという手段に至った。

先ほど述べたよう履修条件を満たさないにもかかわらず、許可してくださったBrandt教授にほんとうに感謝したい。

## 23. GS384: Japanese Society

今月は、日本社会における宗教、性別、ポップカルチャーをトピックとして取り扱った。授業の中では、レクチャーとショートムービーを交えながら各トピックについて学んでいく。担当のChristensen教授は人類学も教えていらっしゃるの、その観点から日本文化と社会について言及したり、日本に住んでいた経験なども基に授業を進めてくださるので、とても面白い内容となっている。今回とても興味を引いたトピックが、「宝塚」や「歌舞伎」、性別に基づく仕事である。今まで、これらの仕事を「普通の事、常識」と捉えていたため、あまり意識しなかったが、このような常識が、日本独特であるのではと思うようになった。また、授業内で「ホストクラブと執事カフェの違いは何か？男性が女性を接客する、本質は同じではないか」といった質問に対し、今まで深く考えてこなかったの、次回のレポート課題として、これらの性別に基づく仕事の変化をテーマとして書いてみようと思う。

また、今月は、週1で行われるディスカッションのリーダーとして、進行役とになった。事前に、Reading課題やビデオ課題から質問を考え、メンバーがそれぞれしっかりと意見をいい、みんなで進めることができたので、別の視点からの日本社会に対する意見を聞く、とても有意義な時間となった。

## 24. ESL111: Listening & Speaking

今月は、アメリカ文化についてのプレゼンテーションを行った。私の選んだトピックは「High School Prom」であり、映画やドラマでもよく取り上げられるアメリカの若者文化の一つである。インターネットからの情報とローズの学生への Survey を基にプレゼンを作成した。実際に何人かの学生に聞いてみると、高校でのプロムは最も思い出深いと答える人が多く、今でもドレスを大切にしているという友達もいた。プロムには、アフタープロム(二次会)や Prom King & Queen というナンバーワン女子と男子を選ぶイベントがある。Survey の回答者曰く、「実際には Jock や Queen Bee といったスクールカースト上位層が選ばれるから、映画にあるような、ごくごく一般的な生徒が突然人気にも選ばれるサクセスストーリーはめったに起こらないよ」と言っていた。実際のプレゼンでは、これらのプロムに対する Stereotype と現実について焦点をあてて順序だてて発表できたこと、また原稿を読まずに発表できたことをふまえ、前学期に比較すると格段にプレゼンテーション能力、英語力が伸びたことを実感できた。来月には、ポスター発表があるので気を引き締めていきたい。

## 3. イベント

### 3.1. Snow Stomp

RHIT の Swing Dance が主催になって行うの年に1度行われる、ダンスパーティーである。日本ではあまり普及していないダンススタイルではあるが、スイングダンスは、1920年代にアメリカで生まれたスイングジャズに合わせペア (leader, follower) で踊るダンスの一つである。一口にスイングダンスと言っても、Blues, Charleston, Lindy Hop, East coast, West coast, Rock n Roll と様々な種類がある。今回は、初心者から上級者まで楽しめて即興性のあるダンスを Lindy Hop をメインに、誰でも参加できるダンスパーティーであった。9月から予定の合うときは、出来るだけクラブ活動に参加し、ようやく Follower のステップを覚え、スムーズに踊れるようになった。このイベントでは、クラブメンバーが初心者にダンスを教えるため、パートナーに教えるステップが自分のとは違うやそれを英語で説明することに苦労したが、何とか一緒に踊ることができた。ダンスの合間のローズの学生や、卒業生などと色々な話をすることもできたので、とても印象に残る楽しい思い出となった。



Fig5. Swing Dance Club 主催のダンスパーティー

### 3.2. Martin Luther King, Jr Day

アメリカの人種差別運動の歴史上、重要な人物であるキング牧師: Martin Luther King Jr の誕生日をアメリカ合衆国の国民の祝日としたものであり、1月の第三月曜日に行われている。公立の学校などは休みになるが、ローズでは通常通り授業が行われる。しかしながら、短縮授業となり講

演会があった。今回の講演者 **Dereck Kayongo** 氏は、ウガンダで生まれケニア難民になった過去から、NGO:グローバル・ソープ・プロジェクト(Global Soap Project)を立ち上げ、現在リサイクルソープを発展途上国に送る活動を行っている。日本の畏まった講演会などとは違い、一か所とどまって話し続けるのではなく、ステージ上を歩いたり、ジョークを言ったり、TEDTalk 聞いているような感覚でとても印象に残る話で、1時間過ぎるのがあっという間であった。

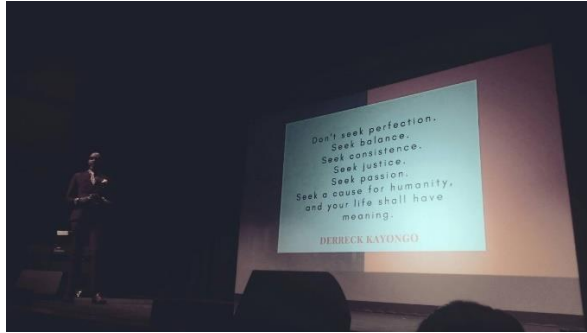


Fig6. Dereck 氏の講演会の様子

### 3.3. The Greatest Floor

このイベントは、各寮ごとのフロアに別けて、24 時間で 24 つのゲームを行い、点数を競うというものである。ゲームには、クイズやボート漕ぎ、早食い競争、料理対決、ロックンロールの MV 作成など、バラエティーに富んだものである。私も、最初の **Opening Game** と **Mystery Event(House of card)** に参加した。寮対抗ということで、日本ではめったに感じるのできない、アメリカ文化らしい一面を感じる良い機会となった。



Fig7. The Greatest Floor の様子

### 4. 最後に

急遽、課題研究のテーマを「アメリカにおける日本の発酵食品に対する認識への調査」から「日本とアメリカの大学生におけるアルコール消費の違いと日本酒に対する認識」に変更した。これに伴い、主に金沢工業大学とローズハルマン工科大学の合わせて約 100 名ほどの学生からアンケートをとることができた。協力してくださった、RHIT の広谷教授、Christensen 教授、指導教授の尾関教授、回答に協力してくれた学生に深くお礼申し上げます。

留学生活も残すところ 3 週間ほどとなり、それぞれの授業も仕上げに入ってきている。課題研究並行しながら、残りの留学生生活を存分に楽しんでいきたいと思う。以上で1月の報告書とする。